

参考事例2

< 事例概要 >

- ①60 歳代、大腸癌術後、肝転移に対し外来化学療法中の外来患者。
- ②化学療法第2クール開始前の定期採血。
- ③AST 855 U/L、ALT 932 U/L であったが、医療機関が設定したAST、ALT のパニック値の閾値は、「1,000 U/L以上」のため臨床検査技師から医師への報告対象外であった。医師は検査結果を未確認で化学療法の薬剤を処方した。薬剤師、看護師は、検査結果を確認しなかった。内服 14 日目の定期受診時に、医師は前回の検査結果を確認し、患者は緊急入院した。入院後、薬剤性肝障害と判断され、ステロイドパルス療法を行った。
- ④入院 10 日後（パニック値検出より約 3 週間後）に死亡。
- ⑤死因は、薬剤性肝障害の可能性。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。